

文・写真 新美 益子(旧向井家住宅かやぶき保存会里山倶楽部)

宅地や広域施設建設によるため池の埋め立てや山間部の開発は、ここ泉州地域では今なお盛んだ。その環境変化が生物や植物にもたらす影響を知るには定点観測が必要だと思い、自宅周辺や出先でメモと写真撮影が日常になった。25年前にはまだ見られた市の花「ササユリ」はもうほとんど姿を消している。

上の写真は市内山間部の大木地区で咲き乱れていた「ノカンゾウ」。万葉集にも歌われている花である。ここ泉州では大阪府下ではめったに見られない自生の野草が季節ごとに色を変え、野に彩を添えてくれるが安心はできない。

ため池や河川、田畑に飛来する渡り鳥や留鳥も同様だ。五平池は住宅地内に残されたため池だが、毎年多数の渡り鳥が飛来している。ことに2～3年ほど前から、ヒドリガモ・キンクロハジロなど渡り鳥の種類も数も増えている。200羽近くになることもある。11月末から始まる池干し時にはダイサギなどサギ類も数十羽集まり、にぎやかになる。彼らの安全地帯としてこの野山や池が残存できるよう地域の人々と思いを共にしたい。



ノカンゾウの群落(大木地区)



ため池の野鳥たち(五平池)

文・写真 田中 正視(和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員)

樹齢三百年を超えるブナの古木が見守る「和泉葛城山ブナ林」では、ゆったりとした悠久の時間が流れています。ゆっくり、ぼちぼち美味しい空気を味わいながらブナ林を堪能してください。とくに雨の日は、本当に素敵なブナの世界に出会えますよ。

大正12年(1923)和泉葛城山ブナ林は、他の二か所に先駆けて天然記念物指定されました。昭和3年(1928)「北限のブナ林」北海道黒松内低地帯「歌才^{うたさい}ブナ林」、昭和35年(1960)広島県の「比婆山^{ひばやま}のブナの純林」と続きます。地元貝塚・岸和田市・大阪府を中心に1988年以来、ブナ林の保護増殖活動が続けられています。特に1993年のブナ林全山一斉開花・大豊作の結実に際して、種子採集・苗木育成・現地への植栽に取り組んできました。1994年に発芽した「ブナの赤ちゃん」は、今では立派な「若木」に育っています。継続調査を実施しており、ずっと成長を見守っています。

春夏秋冬、雨の日もブナの林ではとっても素敵な出会いがいっぱいです。四季折々、お出かけ下さい。リスやムササビくん、たくさんさんの鳥さんたちも待ってますよ。



ブナ植栽木経過調査(2021年12月1日)



昨春発芽したブナの実生(2021年4月26日)